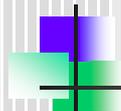


SOA部会活動のご紹介

2007年7月11日

SOA部会

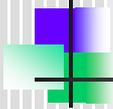
日本アイ・ピー・エム(株) 日力俊彦



SOA部会



- 背景
 - 2004年度より、XMLコンソーシアムにて活動を開始
 - 前身は、テクノロジー部会WebサービスWG
XMLコンソーシアム → 2001年4月から
- 目的
 - 抽象的なSOAの概念から具体的なビジネス面でのメリット、システム設計/実装の方針、Webサービスの有効活用方法等を導き出す
 - 得られた知見や情報を外部に発信することで、**SOAやWebサービスの普及・発展に貢献**する

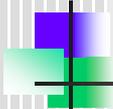


SOAに対する理解



- SOAの考え方(コンセプト)は浸透してきた(かな・・・)
 - 現実的な構築手法は未だ確立されていない
- サービス指向アーキテクチャーであるからには、“サービス”が重要(なんでしょ?)
 - どのようにして発見(抽出)/定義するか?
 - どのようにして実装するか?
- SOAではビジネスモデリングも重要(なんだよね?)
 - ビジネス上の目標/課題に対するトレーサビリティ

サービスの目的が明確にならない・・・

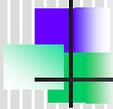


SOAをめぐる声・・・



SOAを巡り、現場で良く聞かれる声・・・

- 別にサービス化しなくても業務は動くよ
- 再利用の準備はコスト高の要因なんじゃない?
- ビジネス目標と担当のプロジェクトは直接関係なんかしていないでしょ?
- プログラム間は直結した方がパフォーマンスがいいじゃん!
- ESBを使う必要なんて今は無いよ
- サービスの抽出(切り出し)の方法がわからないから・・・

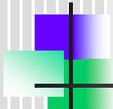


活動内容 (1 / 3)



■ 活動内容

- サービスの記述、発見、合成、実装に関する規格・技術の調査
- SOAによるプロセス統合、B2B、EC等の実現事例の収集と分析
- SOAやWebサービス関連ツールや開発環境、実行環境の調査
- SOAの意義の認知や普及のための情報の発信
- SOA実現に必要なノウハウ、アーキテクチャー・パターン、デザインパターンの収集と蓄積
- ビジネスモデルの定義からWebサービスによる実装に至るSOA適用シナリオの作成
- AJAXやリッチクライアント等の技術のトレンドとSOAとの関連の調査



活動内容 (2 / 3)

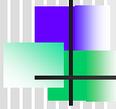


■ 2007年度重点施策

- 2006年度の施策の継続
- SaaSとSOAの関連を紐解き、SaaSビジネスにおけるSOAとの関連 / SOAの適用効果についても検討を行う

■ (参考)

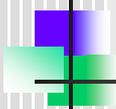
- 2006年度重点施策は・・・
 - SOAの具体的なイメージを開発者 / ユーザーに提示
 - SOAの開発ツールや実行環境が整備されてきた状況に鑑み、SOA開発プロセス(の一部)を実践し、部会での議論を深化する



活動内容 (3/3)



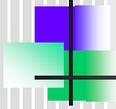
- 2006年度は、以下のWGの立ち上げ、活動実施
 - SOAガイド作成WG
 - SOAの捉え方に一定の尺度を！ → セッション#2 SOA導入進捗度モデル
 - BPEL研究WG
 - “サービス”を構成部品とするフロー・テクノロジーに実際に触れてみよう！
 - サービス設計BP WG
 - “サービス”ってどうやって見つけるのか、やってみよう！
 - セッション#3 サービス設計のBP
 - SOAパターンの図的表現WG
 - SOAにおけるNFRはどうすれば可視化できるか、やってみよう！
 - セッション#4 サービス連携における非機能要件設計上の考慮点
 - Webサービス/リッチクライアント技術動向/適用検討WG
 - サーバー・サイド技術の進化にクライアントはどうついていくのか、追っかけてみよう！
 - セッション#5 SOA環境におけるクライアントシステムの検討



活動方法 (1/2)



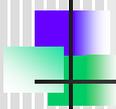
- 月例ミーティングでのF2Fのディスカッション
 - 2006年度実績: 毎月1回 / 第3木曜日
- ビジネス・イノベーション研究部会とのコラボレーション (ミーティングの同日開催、メンバー交流)
- メールングリストによる日々の情報交換、ディスカッション
- 参加メンバー個人による個別テーマや事例の調査
- Webページ、雑誌記事、出版等外部向けコンテンツの作成
 - 2006年度実績
 - 雑誌記事: 技術評論社刊 エンジニアマインド Vol.1 特集記事
 - 外部講演: Modeling Forum 2006
- XMLコンソーシアム他部会等との協調による技術の普及推進
- XMLコンソーシアムDay、XMLコンソーシアムWeekでの活動報告



活動方法(2/2)



- 対象者
 - SOAやWebサービスによるITシステムの実現 / ビジネス応用について興味をお持ちの方
 - プログラミング・スキルは不要
 - 必要に応じて、入門者向けセッションを実施
 - 部会内外より、エキスパートを招聘
- 会員メリット
 - SOA関連情報、ノウハウの獲得
 - 参加メンバーによる情報交換、人的ネットワークの確立



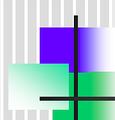
皆様のご参加をお待ちしております！



ビジネスイノベーション研究部会紹介

2007.7.11

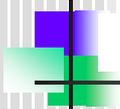
ビジネスイノベーション研究部会
日本ユニシス 牧野 友紀



ビジネスイノベーション研究部会



- 目的
XML、Webサービス、SOA、Web2.0など技術が関連するビジネス・イノベーションを対象に、変革のプロセス、XML関連技術の効果など調査研究を行う。
- 活動内容
 - ビジネスの目標や計画を反映し業務とITを関連づける方法
 - ビジネスモデル定義方法、ビジネスプロセス・モデリング手法の研究
 - ビジネスアーキテクチャとシステムアーキテクチャの関連付け方法の研究
 - エンドユーザ主導の情報活用の形態と必要な技術の研究
- 重点活動
 - 「役立つサービス分析法」プロジェクトの実施

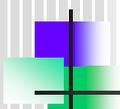


「役立つサービス分析法」プロジェクト



XML Consortium

- 目的: 有用なサービスを作る分析の方法を探る
- 動機: ビジネスプロセス分析と情報システムの構造設計の溝を埋めたい
- 手段: i*法を含めてゴール分析手法の適用
- 成果: サービス分析方法とサンプル・モデル
- 活動内容:
 - サービス分析の方法の仮説
 - 特定業務を想定したモデリングによる思考実験
 - ビジネスプロセス分析に依る方法との比較、相関
- 活動期間: 2007年6月～2008年5月の一年間
- 形態: ビジネスイノベーション研究部会内の活動



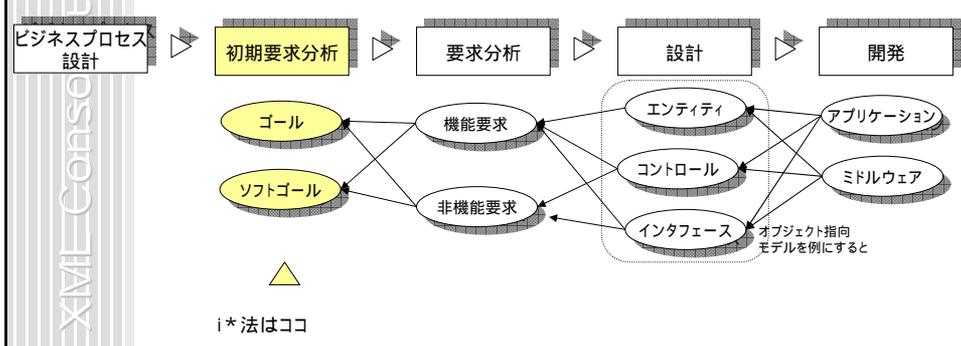
i*法によるサービスの導出



XML Consortium

i*法は、ソフトウェア・エンジニアリングの一部である要求エンジニアリングの手法である。要求エンジニアリングの初期要求分析に位置する。

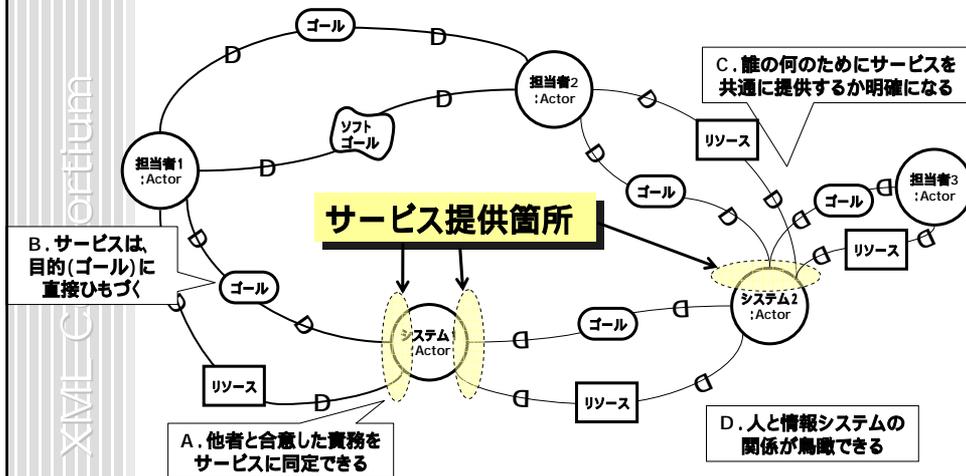
初期要求分析とは、各種手法によりシステムに関連するステークホルダーの活動、要望、課題を把握し、開発するシステムの目的や業務に与える影響を理解する作業。



サービスのあぶり出し再考



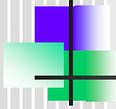
サービスを誰が、誰のために、どんな目的のため、なんの情報を提供するのか明確になる



i*法



- 初期要求分析の手法
- 開発する情報システムの目的や、関連する組織に与える影響を明確にすることで、受け入れやすく利便性の高い情報システムを構築することが狙い
- 組織間の依存関係の意図を明確にして、その意図を実現する組織内のタスクを分析することで、業務上の課題の解決や要望を達成する手段を考えるための手法
- ゴール指向分析手法の一種
- トロント大学Eric S.K.Yuらにより開発
- 用途:
 - business process redesign
 - business redesign
 - information systems requirements engineering
 - analyzing the social embedding of information technology
 - the design of agent-based software systems.
- <http://www.cs.toronto.edu/km/istar/>

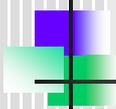


プロジェクト・スケジュール



XML Consortium

07年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	08年 1月	2月	3月	4月	5月
ゴール分析 手法調査		サービス分析方法 の仮説		モデリング実践			サービス分析方法 の評価		成果とりまとめ		発表



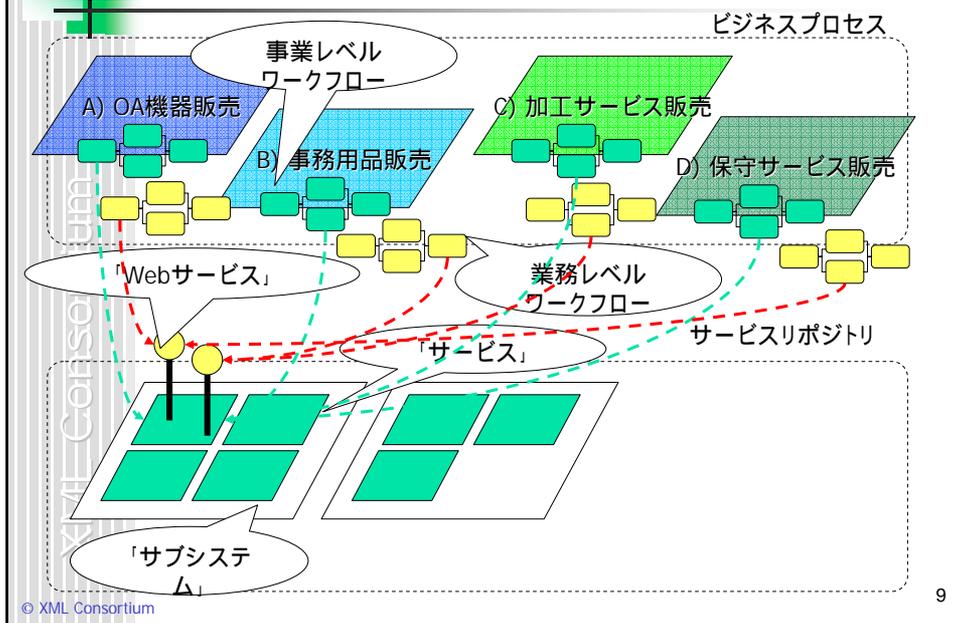
おわりに



XML Consortium

- 「ゴール指向分析手法は導出するサービスの有効性に根拠を与える」と仮説する
- 仮説の検証はこれから一年かけて行う
- 一緒に検討する仲間を募集

添付1) サービス同定のアプローチ例



9

添付2) ビジネスプロセス分析を用いる課題

- A. サービス導出の基底となるアクティビティは不安定
 - 分析目的のビジネスプロセス・モデルのアクティビティは不安定。安定的なサービスを同定するためには一工夫が必要
 - 現実の業務を理解することを目的にしたビジネスプロセス・モデルは、活動の流れ(因果関係)の大枠を表現する。アクティビティの粒度を厳密に揃えることに意味はない。
- B. サービスの目的が明確にならない
 - ビジネスプロセス・モデルの個々のアクティビティを、ビジネス上の目的と関連づけていない。ビジネスプロセスだけでは、サービスの目的は明確にならない。
- C. 誤った共通化によるサービス利便性の低下
 - 属性の類似度から異なるビジネスプロセスのサブプロセスやアクティビティを共通化する。詳細なレベルの個性を無視することで利便性が低下したり、時間の経過とともに個性が大きくなり分割せざるを得ない可能性がある。意義のある共通化のためには、別の視点が必要。
- D. 人と情報システムの関連が鳥瞰できない
 - ビジネスプロセスのアクティビティ毎に、ユースケースを分析することで情報システムと人の関わりが部分的に明らかになるが、全体的な視点で人と情報システムの関係見えずらい。業務変更による情報システムの影響を驚つかみできない

XML コンソーシアム セキュリティ部会

【部会活動の目的】

セキュリティ部会は XML セキュリティ技術のビジネスシステムへの適用に向けて、標準的な技術仕様の調査・翻訳・解説を行ない、また、アプリケーションモデルの検討・試作を通じてシステム構築における様々な問題点の解決方法や具体的な実装ノウハウを蓄積すると共に、それらの成果物を公開することによりセキュリティ技術の理解と普及への助力となるべく活動しています。

部会活動の目的

目的: **「XML セキュリティ技術のビジネスシステムへの適用」**

内容:

1. 勉強会

→ セキュリティ技術に関する理解度を深める

- セキュリティ技術の調査、解説
- 開発ツール、ミドルウェア等の調査および比較検討

2. 翻訳

- 標準仕様や附帯文書を翻訳、公開

3. アプリケーションモデルの検討

→ システム構築における様々な問題点の解決

→ 具体的な実装ノウハウの蓄積

- ビジネス適用事例の調査、収集
- システムモデルの構築
- 試作による技術検証

4. 活動成果物の公開

→ セキュリティ技術の理解と普及への助けとなること

- 技術資料、解説書、翻訳文書
- セミナー講演

【部会活動の方法】

セキュリティ部会の活動は各メンバー又はグループによって決められたテーマに基づいて行なう個別作業と、メンバー全員での月例ミーティングにおける報告や議論を主な軸としています。また、メンバー間において日々の情報交流を行なうにあたり、XML コンソーシアムの運営するメーリングリストや有志による Wiki ページが活用されています。活動を通じて得られた成果は XML コンソーシアム Day および XML コンソーシアム Week において報告を行います。

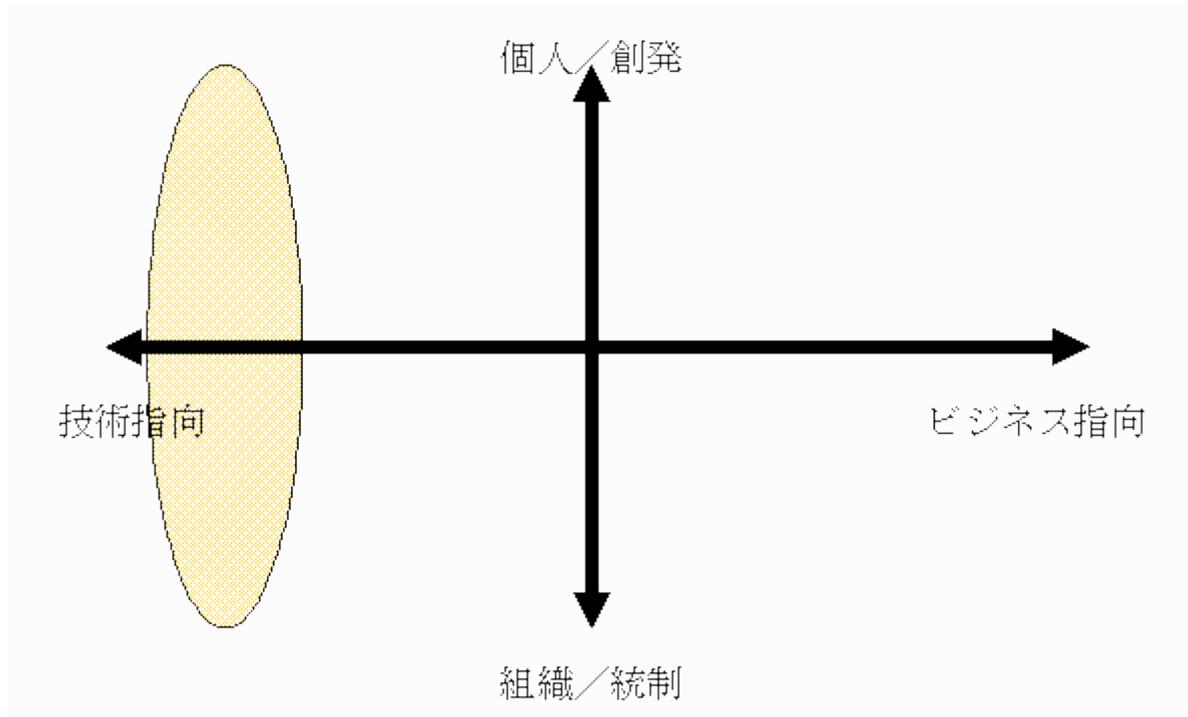
部会活動の方法

- 各メンバー又はグループによる個別活動
 - 技術仕様の調査、翻訳など
 - 翻訳文書、Web ページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
- メンバー全員による月例ミーティング
 - 勉強会、調査報告、ディスカッション
- メーリングリスト、Wiki
 - 日々の情報交換
 - 内部資料や作業中文書の交換
- セミナー
 - 関連製品紹介セミナー
 - XML コンソーシアム Day/Week での活動報告
 - 外部セミナーでの講演
- その他
 - XML コンソーシアム他部会および他団体との協調活動
 - [Web サービス実証部会](#)
 - [製造業 XML 推進協議会\(MfgX\)](#)、[ものづくり APS 推進機構 \(APSOM\)](#)

【部会の位置付け】

XML コンソーシアムにおいて、セキュリティ部会は技術指向部会の一翼として位置づけられています。セキュリティ技術の調査・研究、アプリケーションの試作といった作業は技術的な知識や技能を必要としています。しかし、我々がビジネスの方向を向いていないというわけではありません。部会の目標に掲げているように、セキュリティ部会は「[XML セキュリティ技術のビジネスシステムへの適用](#)」を目指した活動を行なっています。

部会の位置付け



【2007 年度の活動方針】

活動テーマ

昨年度までの活動内容を踏まえ、4つの活動テーマが候補に上がっています。

「三者間 Web サービスにおける暗号化とポリシー制御」

sPlat プロジェクトの活動成果に基づき、Web サービスにおけるメッセージ暗号化とポリシー伝達にともなう問題点の解決方法の探求とその実装に向けて取り組みます。

「IT システムにおける内部統制支援」

オフィス文書や電子証憑に対する電子署名サービスについて、より具体的なアプリケーションモデル化に取り組みます。

「WebOS における ID 管理」

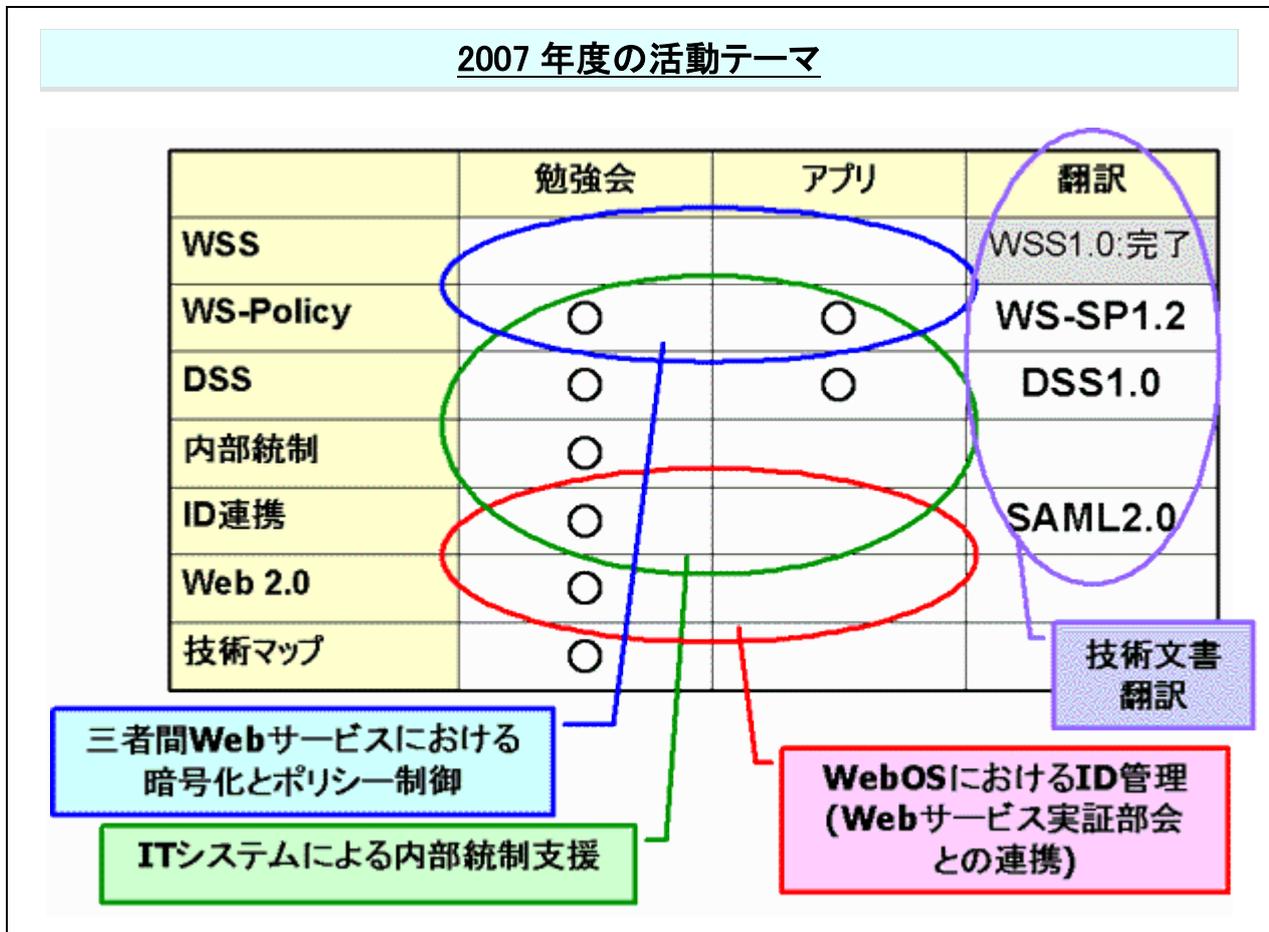
複数の WebOS や WebOS 外部のシステムにむけた ID 連携の仕組みとその実装に向けて取り組みます。

「技術文書の翻訳」

難解なセキュリティ技術に接する多くの人々にとって、日本語に翻訳された技術文書の存在は重要です。日本語訳文書を作成し公開することによって日本の技術コミュニティにおける標準規格の理解を進め、より柔軟で勝ちの高いシステム構築の一助となるべく取り組みます。

また、翻訳を通じて仕様書の隅々まで読み解くことにより、我々の標準規格に対する理解も大いに高められることでしょう。

部会参加メンバーはこれらのテーマに基づいた活動だけに囚われることなく、各々の希望に応じて別のテーマを提案し活動を行なうこともできます。



これらに加え、外部団体との連携を含むもう1つのテーマが現在検討されています。

製造業関連団体との連携 (検討中)

現在、製造工場における生産システムにおいてもXMLの利用が進んでいます。セキュリティ部会はXMLコンソーシアムとアライアンス関係にある製造業関連団体と連携し、XMLを用いた生産システムを構築・運用するにあたってのセキュリティ上の問題点を解決するための活動を立ち上げるべく検討を重ねています。

製造業関連団体との連携 (検討中)

- XMLコンソーシアムとアライアンス関係にある外部団体との協調活動
 - [製造業XML推進協議会\(MfgX\)](#)
 - [ものづくりAPS推進機構\(APSOM\)／PSLXフォーラム](#)

- 生産工場における XML 利用に伴なうセキュリティ上の課題を確認し、その解決に向けた検討を行なう
 - 不正データの投入
 - 機密データの漏洩
 - 証憑の改竄
 - 官公庁への電子データ提出
- 合同ワーキンググループの開催、及び 他団体ミーティングへの参画を通じての情報交流と人的交流

【ミーティングの予定】

2007年度第1回

- 日時:7月23日(月) 14:00~18:00
- 会場:東京エレクトロン デバイス 本社(初台)
- 議題:
 - 新年度活動の開始にあたって
 - 活動体制の確認(部会リーダーの選出)
 - 今期活動に向けての抱負
 - メンバー毎の活動テーマ
 - WS実証部会との合同活動の進め方
 - 製造業関連団体との合同活動の進め方
 - 勉強会&ディスカッション
 - WebOS と ID 連携
 - 製造業における XML の利用について

2007年度第2回

- 日時:8月23日(木)を候補日として調整中。

【これまでの活動実績】

<2006 年度>

活動期間

2006/06~2007/05

活動内容

- 標準規格及び関連技術の調査、研究
 - SAML(Security Assertion Markup Language) 2.0
 - WS-Policy(Web Services Policy) - Framework

- WS-Policy – Attachment
- WS-SecurityPolicy (Web Services Security Policy Language)
- DSS(Digital Signature Services)
- DRM(Digital Rights Management)関連技術
- 実システムへの適用へ向けた検討
 - DSS を用いたアプリケーション試作に向けての検討
 - オフィス文書に対する電子署名サービスの適用
- Web サービス実証部会との合同による sPlat プロジェクト(2005 年度より継続)

Web サービスにおける暗号化 XML データの取り扱いに伴う問題点と その対策についての検討。

妥当性検証とデータバインディングを対象。

成果物

- コンソーシアム主催セミナーでの発表
 - [第 8 回 XML コンソーシアム Day 2 日目\(2006/12/12\)](#)

「WS-Policy 仕様」

「Digital Signature Service を用いた、アプリケーション試作に向けて」

「sPlat プロジェクト活動報告」(Web サービス実証部会との合同成果)

- [第 6 回 XML コンソーシアム Week 5 日目\(2007/05/21\)](#)

「オフィス文書と電子署名サービス」

「MPEG-21 の技術基盤について」

「ID 連携を実現する SAML 2.0 と ID 管理の最新動向」

「Web サービスのセキュリティ規格の標準化動向」

「sPlat プロジェクト成果発表」(Web サービス実証部会との合同成果)

- (1) sPlat プロジェクトの概要
- (2) 暗号化 XML データ利用技術
- (3) WSIT を使った3者間のポリシー伝達

<2005 年度>

活動期間

2005/06～2006/05

活動内容

- 標準規格文書の翻訳、公開
 - OASIS Web Services Security 1.0: SOAP Message Security 1.0 (WS-Security 2004) Errata 1.0
 - OASIS Web Services Security 1.0: Username Token Profiles 1.0
 - 同 Errata 1.0
 - OASIS Web Services Security 1.0: X.509 Token Profiles 1.0
 - OASIS Web Services Security 1.0: SAML Token Profiles 1.0

- 標準規格及び関連技術の調査、解説
 - WSS 1.0 概要
 - XACML 2.0 の概要
 - Web サービスのベストプラクティス
 - Web サービスポリシーの動向と仕様解説
 - WS-Trust 概要
 - OASIS WS-Security 標準について
 - セキュリティ関連 XML 標準技術規格マップの更新
- XML コンソーシアムセミナーの立案
 - [オープンな Web アプリケーション環境のためのセキュリティ最新動向 - 認証技術編 \(2005.09.13\)](#)
- 外部セミナーでの講演
 - [製造業 XML フォーラム 2005 \(2005/06/07\)](#)

「暗号化対策” その手法と効果について」

- JavaOne Tokyo 2005 (2005/11/10)

「Webサービスのベストプラクティス」

- Web サービス実証部会との合同による sPlat プロジェクトの開始

Web サービスにおける暗号化 XML データの取り扱いに伴なう問題点とその対策についての検討。

妥当性検証とデータバインディングを対象。

[プレスリリース「XML コンソーシアム、暗号化 XML データの利用技術の検討を開始」\(2006/04/06\)\[PDF\]](#)

成果物

- [日本語翻訳](#)

[プレスリリース「XML コンソーシアム、WS-Security の翻訳文書を公開」\(2006/07/11\)\[PDF\]](#)

- 2006.XX.XX OASIS Web Services Security 1.0: SOAP Message Security 1.0 (WS-Security 2004) Errata 1.0
- OASIS Web Services Security 1.0: Username Token Profiles 1.0
- 同 Errata 1.0
- OASIS Web Services Security 1.0: X.509 Token Profiles 1.0
- 同 Errata 1.0
- OASIS Web Services Security 1.0: SAML Token
- コンソーシアム主催セミナーでの発表
 - [XML コンソーシアムセミナー \(2005/09/13\)](#)
[オープンな Web アプリケーション環境のためのセキュリティ最新動向 - 認証技術編](#)

「Web アプリケーション環境のための認証技術: イントロダクション」

- [第 7 回 XML コンソーシアム Day 1 日目 \(2005/12/15\)](#)

「セキュリティ部会活動中間報告」
「最新XMLセキュリティ技術概要」
「Webサービスのベストプラクティス」

- [第 5 回 XML コンソーシアム Week 1 日目 \(2006/05/22\)](#)

「Web サービスを支えるセキュリティ技術」

- [第 5 回 XML コンソーシアム Week 3 日目 \(2006/05/24\)](#)

「sPlat プロジェクト:暗号化 XML データ利用技術についての課題と対策」(Web サービス実証部会との合同成果)

<2004 年度>

活動期間

2004/06～2005/05

活動内容

- 標準規格文書の翻訳、公開
 - OASIS Web Services Security: SOAP Message Security V1.0 (WS-Security 2004)
- 標準規格及び関連技術の調査と解説資料作成
 - Web Services Security
 - SAML 2.0
 - セキュリティ関連 XML 標準技術規格マップの更新
- 開発ツール、ミドルウェア等の調査および比較検討
 - WS-Security 2004 の対応状況

成果物

- [日本語翻訳](#)
 - OASIS Web Services Security: SOAP Message Security V1.0 (WS-Security 2004)
- コンソーシアム主催セミナーでの発表
 - [関西での活動を盛りあげよう集会 \(2004/12/02\)](#)

「Web サービスのセキュリティ」

- [第 6 回コンソーシアム Day 1 日目 \(2005/01/13\)](#)

「セキュリティ部会の取り組み - セキュリティ関連 XML 規格の解説」

- [第 4 回コンソーシアム Week 1 日目\(2005/06/07\)](#)

「セキュリティ関連 XML 標準技術の紹介」

「Web Services Security の概要と今後の状況」

「Web Services Security 製品対応状況について」
「インターネットを変える認証技術 SAML 2.0」

<2003 年度～2002 年度>

「応用技術部会 セキュリティWG」として活動。

活動内容

- 標準規格及び関連技術の調査と解説資料作成
 - セキュリティ関連 XML 規格の調査、解説
 - セキュリティ関連 XML 標準技術規格マップの更新
- 標準規格の検証とアプリケーション試作
 - XKMS、XML-Signature、XML Encryption を用いた旅行発注システムの構築
 - SAML オートリテ、SAML リクエストの実装と、SSO システムの構築
 - XML-Signature、XML Encryption、SAML を用いた電子委任状システムの構築

<2001 年度>

「基盤技術部会 共通基盤 WG セキュリティ SWG」および「応用技術部会 セキュリティWG」として活動。

活動内容

- 標準規格及び関連技術の調査と解説資料作成
 - 図解XML(セキュリティ編)
 - セキュリティ関連 XML 標準技術規格マップ
 - ケーススタディを通じた、セキュリティ関連 XML 規格の調査、解説
 - Webサービス技術解説書への参画
- 標準規格の検証とアプリケーション試作
 - XKMS サーバ、クライアントの開発と、XML-Signature を用いた電子署名システムの構築

連絡先

セキュリティ部会への参画希望、及び 活動についてのお問合せは、
wg-sec-ldr@xmlconsortium.org 宛にお願いします。



XML Consortium

～ XMLコンソーシアム 部会紹介セミナー ～

セキュリティ部会 活動のご紹介

2007年7月11日

XMLコンソーシアム セキュリティ部会

© XML Consortium



ご紹介の主旨

- ▶ セキュリティ部会の目指すところ
- ▶ どのような活動を行ってきたか
- ▶ どのような活動を行っていくか

© XML Consortium

Security SIG
11-Jul-2007



部会活動の目的



目的: **XMLセキュリティ技術のビジネスシステムへの適用**

- 勉強会
 - ➡ セキュリティ技術に関する理解度を深める
 - セキュリティ技術の調査、解説
 - 開発ツール、ミドルウェア等の調査および比較検討
- 翻訳
 - 標準仕様や附帯文書を翻訳、公開
- アプリケーションモデルの検討
 - ➡ システム構築における様々な問題点の解決
 - ➡ 具体的な実装ノウハウの蓄積
 - ビジネス適用事例の調査、収集
 - システムモデルの構築
 - 試作による技術検証
- 活動成果物の公開
 - ➡ セキュリティ技術の理解と普及への助けとなること
 - 技術資料、解説書、翻訳文書
 - セミナー講演



部会活動の方法



- 各メンバー又はグループによる個別活動
 - 技術仕様の調査、翻訳など
 - 翻訳文書、Webページ、雑誌記事、出版など外部向けコンテンツの作成
- メンバー全員による月例ミーティング
 - 勉強会、調査報告、ディスカッション
- メールングリスト、Wiki
 - 日々の情報交換
- セミナー
 - 関連製品紹介セミナー
 - XMLコンソーシアムDay / Weekでの活動報告
- その他
 - XMLコンソーシアム他部会および他団体との協調活動
 - Webサービス実証部会
 - 製造業XML推進協議会 (MfgX)、ものづくりAPS推進機構(APSOM)



これまでの活動実績(2)



- 2004年度
 - 標準規格文書の翻訳、公開
 - OASIS Web Services Security: SOAP Message Security 1.0 (WS-Security 2004) 日本語訳
<http://www.xmlconsortium.org/wg/sec/wss.html>
 - 標準規格及び関連技術の調査、解説
 - WSS 1.0, SAML 2.0
 - セキュリティ関連XML標準技術規格マップ
 - 開発ツール、ミドルウェア等の調査、比較
 - WS-Security 2004の対応状況
- 2005年度
 - 標準規格文書の翻訳、公開
 - OASIS Web Services Security 1.0: SOAP Message Security 1.0 (WS-Security 2004) Errata 1.0 日本語訳
 - OASIS Web Services Security 1.0: Username Token Profile 1.0 日本語訳
 - OASIS Web Services Security 1.0: Username Token Profile 1.0 Errata 1.0 日本語訳
 - OASIS Web Services Security 1.0: X.509 Certificate Token Profile 1.0 日本語訳
 - OASIS Web Services Security 1.0: SAML Token Profile 1.0 日本語訳
 - 標準規格及び関連技術の調査、解説
 - WSS 1.0, XACML 2.0, WS-Policy, WS-SecurityPolicy, WS-Trustなど
 - OASIS WSS TC, WS-SX TC等における標準化動向
 - Webサービスのベストプラクティス、セキュリティ関連XML標準技術規格マップ
 - sPlat プロジェクトの開始
 - Webサービスにおける暗号化XMLデータの取り扱いに伴う、妥当性検証やデータバインディングにおける問題点とその対策についての検討
<http://www.xmlconsortium.org/release/pdf/px060406-security-project-final2.pdf>
 - Webサービス実証部会との合同プロジェクト



これまでの活動実績(3)



- 2006年度
 - 標準規格の調査、勉強会
 - 標準化団体における活動状況
 - WS-Policy, WS-SecurityPolicy
 - Digital Signature Services(DSS)
 - SAML 2.0
 - MPEG21
 - 実システムへの適用に向けた検討
 - DSSを用いたアプリケーション試作に向けての検討
試作実装には至らず
 - オフィス文書と電子署名サービス
 - sPlatプロジェクト
 - 前年度より継続して活動 ひとまず完了
 - 暗号化XMLデータ利用技術
 - WSITを使った3者間のポリシー伝達



2007年度の活動テーマ



XML Consortium

	勉強会	アプリ	翻訳
WSS			WSS1.0:完了
WS-Policy			WS-SP1.2
DSS			DSS1.0
内部統制			
ID連携			SAML2.0
Web 2.0			
技術マップ			

三者間Webサービスにおける
暗号化とポリシー制御

ITシステムによる内部統制支援

WebOSにおけるID管理
(Webサービス実証部会
との連携)

技術文書
翻訳

© XML

活動テーマの概要



XML Consortium

- 三者間Webサービスにおける暗号化とポリシー制御
 - sPlatプロジェクトの活動成果に基づき、Webサービスにおけるメッセージ暗号化とポリシー伝達にともなう問題点の解決方法の探求とその実装に向けて取り組む
- ITシステムにおける内部統制支援
 - オフィス文書や電子証憑に対する電子署名サービスについて、より具体的なアプリケーションモデル化に取り組む
- WebOSにおけるID管理
 - 複数のWebOSやWebOS外部のシステムにむけたID連携の仕組みとその実装に向けて取り組む
 - Webサービス実証部会との連携して活動
- 技術文書の翻訳
 - 難解なセキュリティ技術に接する多くの人々にとって、日本語に翻訳された技術文書の存在は重要
 - 日本語訳文書を作成し公開することによって日本の技術コミュニティにおける標準規格の理解を進め、より柔軟で勝ちの高いシステム構築の一助となるべく取り組む
 - 翻訳を通じて仕様書の隅々まで読み解くことにより、標準規格に対する理解が向上

各々の希望に応じて、別のテーマを提案し活動を行なうことも可能

「やりたいことをやるう！」

© XML Consortium

urity SIG
Jul-2007



製造業関連団体との連携 (検討中)



- XMLコンソーシアムとアライアンス関係にある外部団体との協調活動
 - 製造業XML推進協議会(MfgX)
 - ものづくりAPS推進機構 (APSOM) / PSLXフォーラム
- 業界団体 (製造情報推進フォーラム) による合同デモシステムを土台とし、生産工場におけるXML利用に伴うセキュリティ上の課題を確認し、その解決に向けた検討を行なう
 - 設計データに関する情報保護
 - 成型・医薬・食品レシビ、機器制御データなどを受け渡す際の漏洩防止、改竄防止
 - 内部文書の管理
 - 安全書類、報告書、機器出力データなどに対する電子承認、改竄防止
 - 外部文書の管理
 - 医薬・食品安全、環境、防災などの官公庁提出書類に対する、電子署名、第三者認証
- 合同ワーキンググループの開催、及び 他団体ミーティングへの参画を通じた情報交流と人的交流
- 活動のターゲット
 - システムコントロールフェア(SCF) 2007 2007年11月
 - Manufacturing Open Forum(MOF) 2008 2008年秋?



次回部会ミーティングのご案内



- 2007年度第1回

日時: 7月23日(月) 14:00 ~ 18:00

会場: 東京エレクトロン デバイス 本社 (初台)

議題:

 - 新年度活動の開始にあたって
 - 活動体制の確認 (部会リーダーの選出)
 - 今期活動に向けての抱負
 - メンバー毎の活動テーマ
 - WS実証部会との合同活動の進め方
 - 製造業関連団体との合同活動の進め方
 - 勉強会 & ディスカッション
 - WebOSとID連携
 - 製造業におけるXMLの利用について
- 2007年度第2回

日時: 8月23日(木) 13:30 ~ 18:00 (仮)

会場: 仮スケジュール、現在調整中



Webサービス実証部会 ご紹介

2007年7月11日

Webサービス実証部会
松山 憲和 PFUアクティブラボ株式会社)
matsuyama.nori@pfu.fujitsu.com

目的/活動内容



実ビジネスを想定したプロトタイプシステムの開発を通して、多くの技術者が抱えている技術的な課題の解決手段をみずから発見/公開し、XML/Webサービス利用技術の向上および普及に努める。

XML Webサービス SOAP **REST JSON...**
WS- **業界標準スキーマ** TravelXMLなど)
Microformats Ajax **Comet**
WebOS

プロトタイプシステム開発

実ビジネスに基づくプロトタイプシステム
XML応用規格を利用したプロトタイプシステム

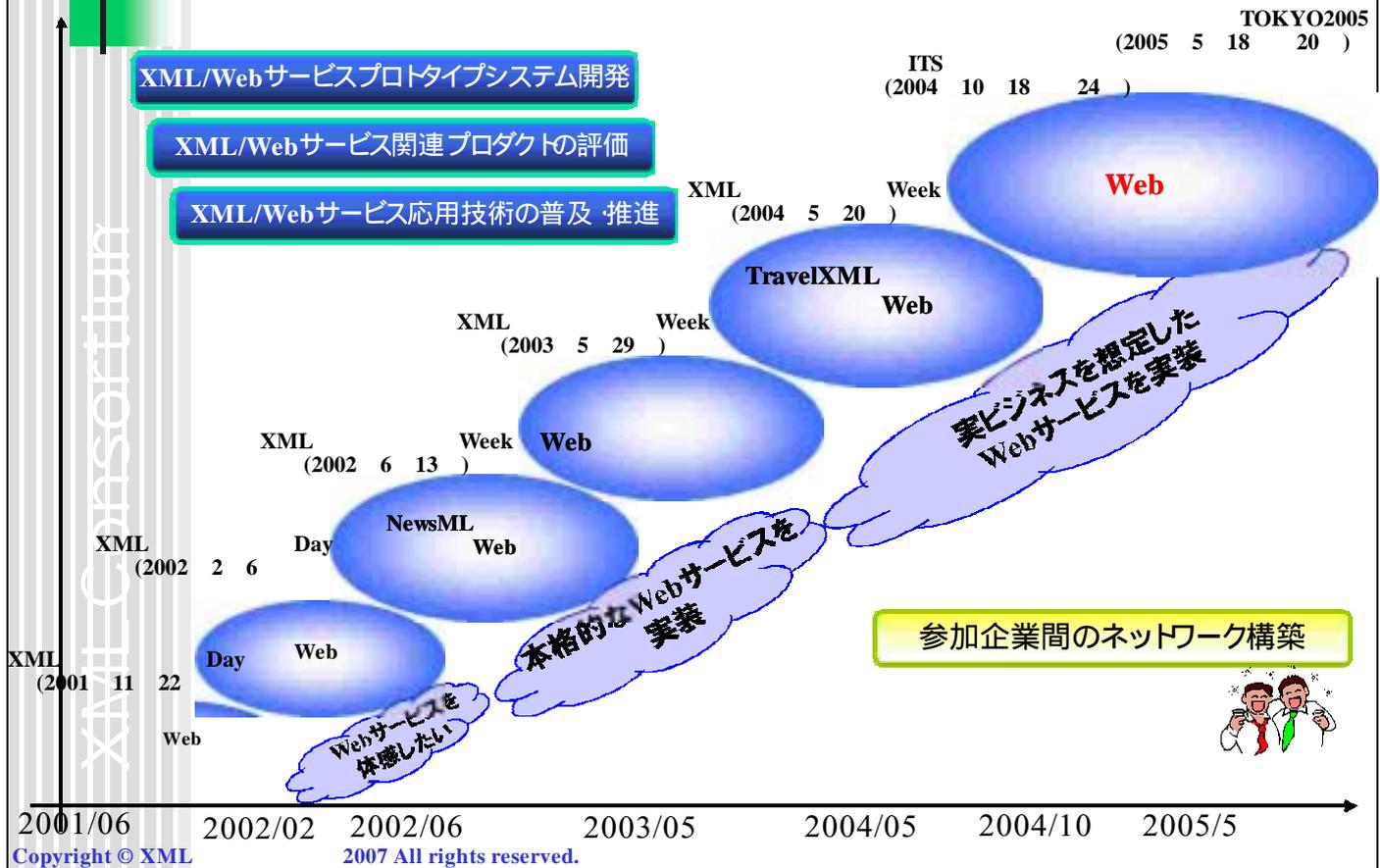
関連製品評価

相互接続性検証? フィードバック
開発生産性、使用感

情報発信

定例セミナー 総会等での発表
学会、雑誌等での発表
Webページによる情報の発信
製品紹介セミナーの開催

これまでの



iPLAT 道路交通情報を使った 複合Webサービス実証実験



17個のシステムを構築(内14個をXML Webサービスで連携)
 BPELの有効性を検証
 Ajaxの採用 (Ajaxという言葉が出たその月の部会)
 20社54名による共同プロジェクト

Webサービスとは（再考）



Webサイトで提供される
サービス全体

- Webブラウザを使って人がサービスを受ける
- ホテル予約サイトなど

SOAP/WSDL/ UDDI
提供される機能

- ソフトウェア/システムがサービスを受ける
- Webサービス実証部会の主な対象

（重要なのは通信データ形式ではなく）
システムとシステムを
繋ぐための技術全般

- SOAPに限定せず、REST/RSS JSON...もあり
- XMLHTTPオブジェクトによって、Webブラウザもシステムの一つと考えることができるようになった。

『道路交通情報を使った複合Webサービス実証実験』でもSOAP以外の連携技術を利用
例：Blogとの連携にはRSS



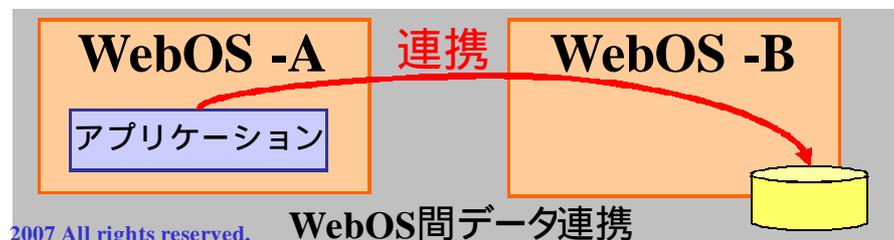
2006年度活動状況



WebOS関係技術の調査・研究

- WebOS上のアプリケーション開発
- WebOS間アプリケーション連携/データ連携
- WebOSのメリット、ビジネスモデル、将来像を議論

Web 2.0



WebOS上でアプリケーション開発

WebOS上のアプリケーション（Gadget）を開発 ? OK

WebOSを構築（オープンソース） ? OK

WebOS上のアプリケーション間を連携

WebOS 共通APIの調査・可能性検討・開発

WebOS 間連携APIの調査・可能性検討・開発

WebOS 間を連携

WebOS技術を使ったビジネスシステム

Webサービス技術 WS- REST JSON...
業界標準ボキャブラリ

1 Webサービス実証部会で
検討

第1回 Webサービス実証部会

日時：7月25日（水）14時00分～18時00分

場所：キャノンソフト情報システム様（池袋）

Webサービス実証部会への
ご参加お待ちしております



XML Consortium

【 2007年度 XMLコンソーシアム部会紹介セミナー 】

ご清聴ありがとうございました

END



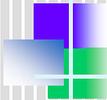
XMLコンソーシアム部会紹介セミナー

Web 2.0 部会



2006年度 活動内容

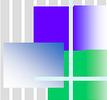
- hon.jp等国産WebAPIの調査、試用。
- エンタープライズ・マッシュアップ方式の考案、調査・分類。
- Sun × リクルート第1回マッシュアップコンテストの受賞作品の試用、評価。
- xfy, c2talk他、マッシュアップ可能な専用クライアントの開発会社による紹介。
- Ajax等Web2.0的サービスの開発手法、開発環境。テスト・ツール。法的メタデータ。
- Ruby on Rails, Pythonに代表される軽量言語。
- Web2.0時代のSOA2.0 ~ REST準拠のサービスとSOAP/WSDLの使い分け、併用の検討。
- Web2.0のビジネスモデル。WebOS、SaaS。



2006年度 活動成果



- 「エンタープライズ・システムのためのWeb 2.0」提言書
- 2007年6月公開
- 公開場所
 - XMLコンソーシアムサイト
<http://www.xmlconsortium.org/wg/web2.0/07-web2.0-youkou.html>
 - インプレス殿のエンタープライズ系新サイト



2007年度 活動要領

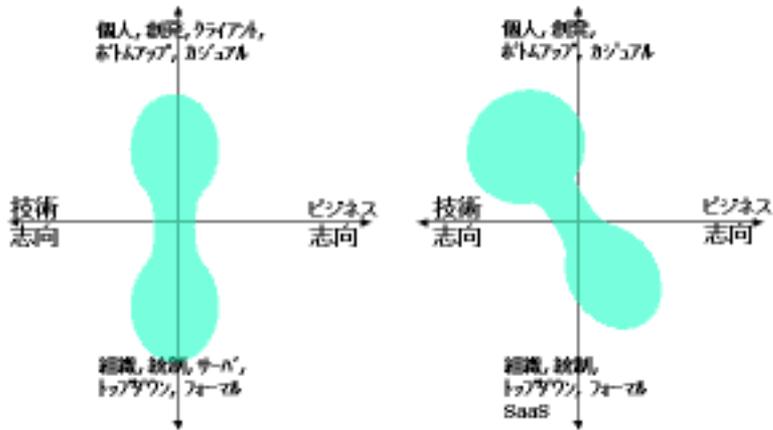


- エンタープライズ向けWeb2.0の全体像、哲学、利用者視点のビジョン、設計哲学、デザインパターンの調査
- Ajax, マッシュアップ, REST型Webサービス等、Web2.0の各技術要素の研究、試作・評価
- エンタープライズ・ポータル, SaaS活用, 社内Blog/SNS運用など、ユーザ参加型コンテンツ収集・連携のモデル, アプリの検討
- SaaS事業化(提供側), XBRL活用, HR-XML活用, RSSマーケティング, ロングテール等、ビジネス面の検討、予測
- 複数WebServiceを使い分け, 併用や、メタデータ活用に関する研究



2006年度

2007年度



Web 2.0技術要素には網羅的に取組み、
組織サイドは「思想」、マーケの要素大。



2007年度 活動方法

- 月例ミーティングの開催
- SNS、ブログ、メーリングリスト等による日常の情報交換、ディスカッション
- 参加メンバー個人によるテーマ別の調査報告の実施
- XMLコンソーシアムの他部会および他団体との協調による活動
- 部会成果発表会 (XMLコンソーシアムDay、XMLコンソーシアムWeek等)での活動報告
- 外部イベント(Web 2.0 Expo等)への参加



第1回部会



- 2007年7月20日(金)
14:00-17:00
- 日立ソフトタワーB
 - りんかい線『品川シーサイド駅』より 徒歩1分
 - 京浜急行線『青物横丁駅』より 徒歩8分



Web2.0部会への
参加をお待ちしております

部会紹介セミナー

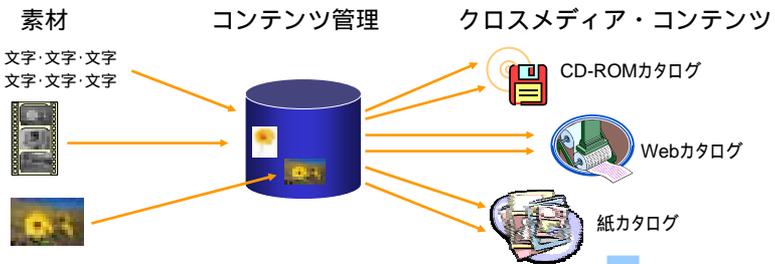
クロスメディア・パブリッシング部会



ワンソース・マルチユース

素材 コンテンツ管理 クロスメディア・コンテンツ

文字・文字・文字
文字・文字・文字



CD-ROMカタログ
Webカタログ
紙カタログ

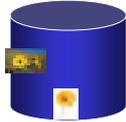
主に制作側の視点で、制作・管理の効率化に重点を置いた概念
素材の再利用に重点を置いており、出力先が単一メディアでも成り立つ。



XML Consortium

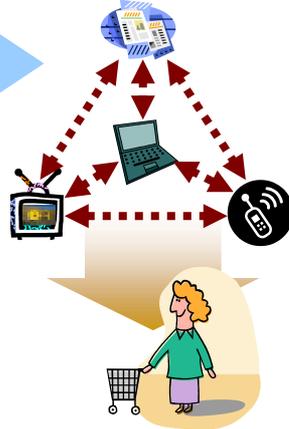
クロスメディア

ワンソース・マルチユース



パブリッシング

クロスメディア・コンテンツ



ワンソース・マルチユースによって管理されているデータを複数のコンテンツに出力して利用する事。出力されるコンテンツは、利用者がメディア間を横断することを意図して作成される。

主に消費者に重点が置かれている考え方で、メディアミックスとワンソース・マルチユースを融合させた概念ともいえる。

クロスメディア・パブリッシング

- 印刷業界は紙だけの出版からの脱皮を図ろうとしている
- Webサイトを持つ企業へ、3つの業界が協力して、クロスメディア・ソリューションを提供
 - 印刷会社
 - 出版社
 - IT企業

クロスメディア・パブリッシング部会 2007年の位置づけ、スタンス

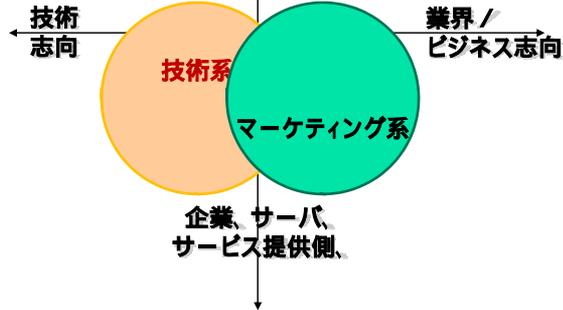


XML Consortium

2007年度

↑
コンシューマ、
クライアント
サービス利用側

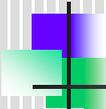
2007年から
活動ごとの議長制



© XML Consortium



XML Consortium

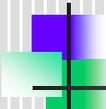


メンバー企業紹介(20名)

- IT 利用企業系(4社 7名)
 - アイフィスジャパン(出版業) *
 - 共同印刷(印刷業)
 - ピープルスタッフ(派遣業)
 - ベネッセコーポレーション(出版)
- 通信事業系(3社 3名)
 - NTTソフトウェア
 - ソフトバンクテレコム
 - 三菱商事
- IT 提供企業系(7社 9名)
 - イースト **
 - サイバーテック
 - JIEC
 - デジタルコミュニケーションズ
 - BUG
 - ロココ
 - 日立システムアンドサービス *
- 特別参加(1名)
 - 日本印刷技術協会(JAGAT)

定例部会参加
は、10~13名

** リーダ(仮)
* サブリーダー



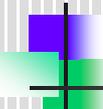
2006年度

- メンバー企業の事例紹介
 - ベネッセ、共同印刷、ピープルスタッフ、ソフトバンクテレコム
- クロスメディア企業見学
 - 読売新聞YORIMOシステム
 - 報知新聞NewsMLシステム
- 展示会见学ツアー
 - Page2007見学ツアー、JGAS、ダイレクトマーケティングEXPO
- JAGATクロスメディアエキスパート試験



定例部会風景1 (11月の定例部会。場所:イースト)



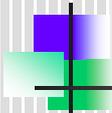
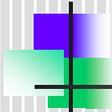


展示会で見た「クロスメディア」



XML Consortium

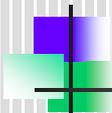
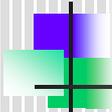
Copyright © XMLコンソーシアム 2006 All rights reserved.



2007年度 マーケティング系予定

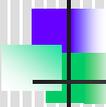
- 拡大部会「クロスメディア交流会」
 - 協力: JAGAT
- クロスメディアの活用提案書を具体化

- クロスメディア企業見学
- 展示会見学ツアー



技術系SG活動内容案

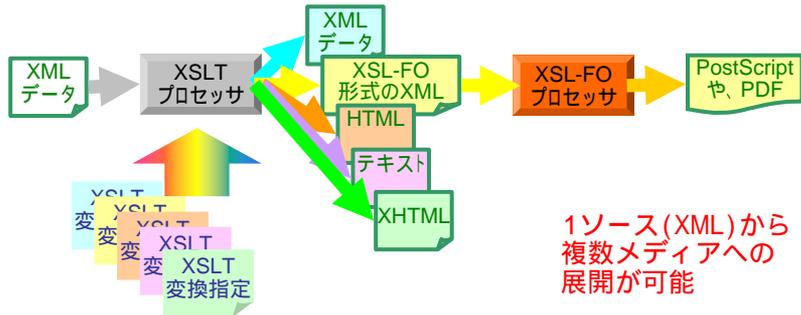
- XMLをXSLTを用いてXSL-FOに変換し，組版エンジンでフォーマットする方法を修得
- Apache Cocoonを用いた，初歩的クロスメディア（1ソースマルチユース）実現の方法を修得
 - いずれも実際にコーディングします
 - 未経験者歓迎
- マーケ系SGの提案内容を実現



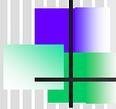
XSL、XSLT、XSL-FO

XML Consortium

- XSL (eXtensible Stylesheet Language)
 - SGMLのDSSSL、HTMLのCSSをもとに作られた、XML用のスタイルシート用言語。XSLTとXSL-FOからなる。
 - XSLT : XMLを別の構造のXMLにするための変換言語
 - XSL-FO : 「見栄え」や「体裁」を定義する言語

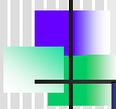


1ソース(XML)から
複数メディアへの
展開が可能



XMLDB部会 紹介

元XMLDB勉強会リーダー
加藤哲義



XMLデータ処理の共通基盤

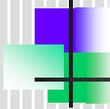
XML Query1.0 正式勧告 (2007年1月)

各社からXML DB製品リリース
(ネイティブ型 & RDBハイブリッド型)



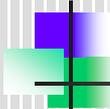
XMLデータ処理の共通基盤

XMLDBを、何に、どうやって使うの？



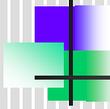
ワークドリブンの活動（定期開催、成果物を期待）

- ・ 第二次W3Cドキュメント翻訳
 - XML Query Use Cases日本語版
 - 訳語集
- ・ W3Cドキュメントの整理
 - W3Cの歩き方
 - W3C逆引きインデックス
(やりたいことから参照すべきドキュメントのインデックス化)
- ・ XQueryのチュートリアル、TIPS集の作成
- ・ XMLDB利用の心得集
- ・ XMLDB Wikiの運営



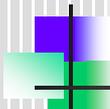
ワークドリブンの活動（定期開催、成果物を期待）

- ・ XMLDBパフォーマンスチューニング
- ・ インダストリ毎のサンプル集
- ・ XMLタグ設計のノウハウ
- ・ スキーマの保守、バージョン管理手法
- ・ 構築において苦労話
- ・ 設計コンテスト
- ・ 模擬プロジェクトによる開発実践と評価



イベントドリブンの活動（不定期開催、途中参加可能）

- ・ 第二次ベンダ訪問（IBM、Oracle、MicroSoft、SoftwareAG）
- ・ ユーザ訪問
- ・ SI'er 訪問（アンチXMLDBベンダーでもWelcome）
- ・ 市場調査・アンケート（各種メディアとのタイアップ調査など）
- ・ XMLDB導入相談会（駆け込み寺）
- ・ XMLDB導入の「はてな」（ASKメールと回答のオンライン環境）
- ・ パネルディスカッション XMLDB vs RDBMS
- ・ 業界業種別XMLDB適用モデル資料



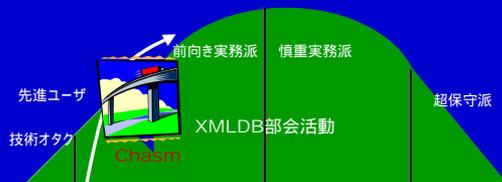
XMLDB部会の展望

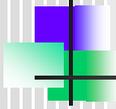
XMLDBのキャズム越えのために、
「XMLDB **プロダクト**」から「XMLDB **市場**」への
機運と基盤づくりの活動。

マーケティング・サブグループ

エンジニアリング・サブグループ

XMLDB部会はXMLDB市場の**キャズム**橋に





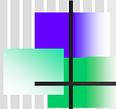
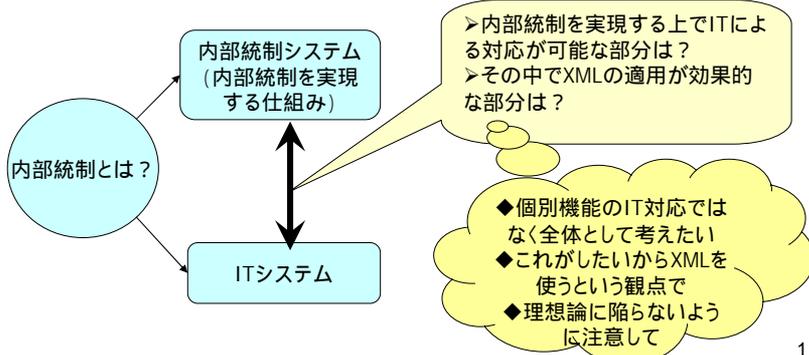
内部統制勉強会



XML Consortium

活動目的: 内部統制実現の中でのXML技術適用可能性の検討

- J-SOX対応そのものはスコープとはせず、あるべき内部統制への対応をスコープとする。
- BPMやシステム間連携など業務の効率化やコストの削減につながる方法をスコープの中心とする。



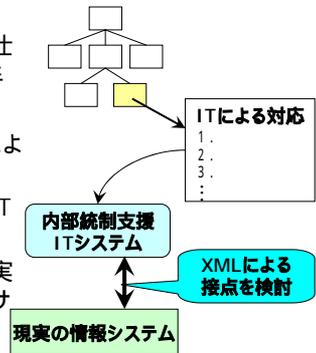
内部統制勉強会



XML Consortium

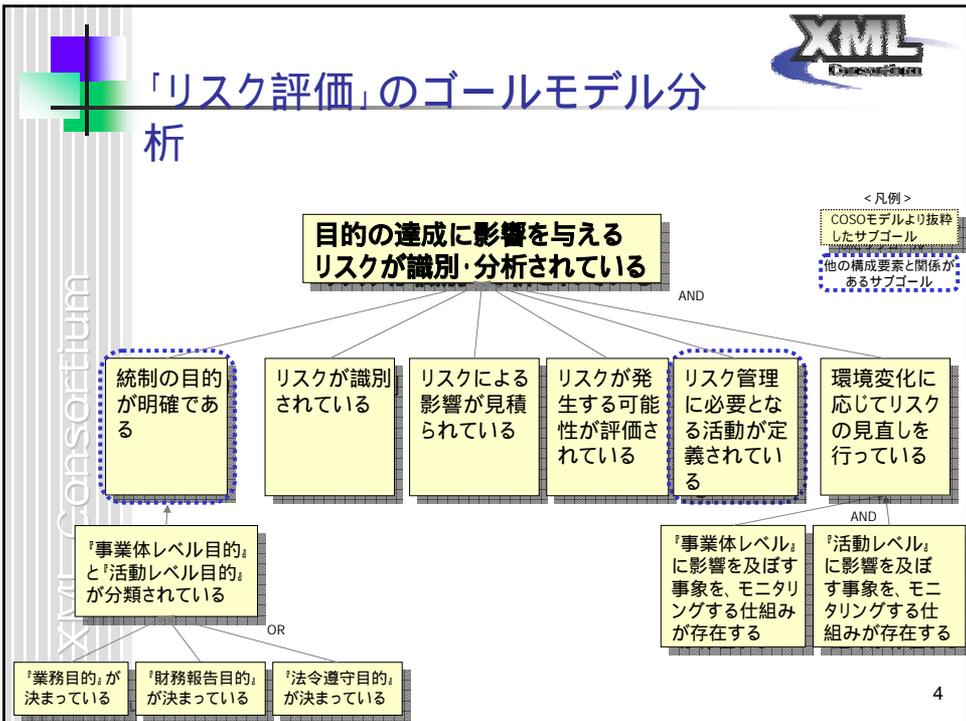
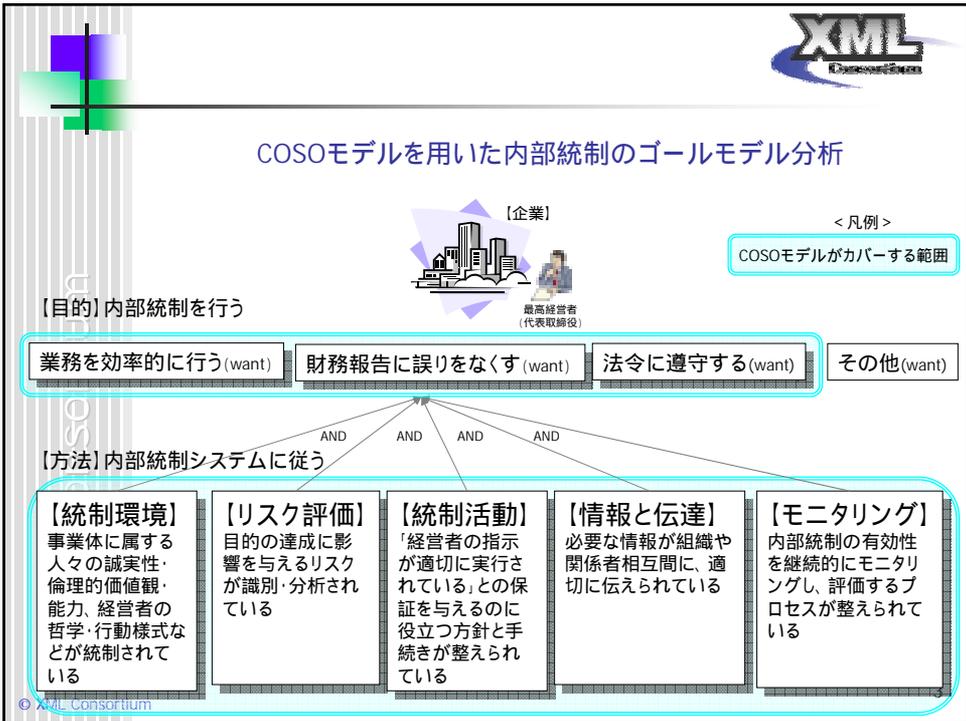
検討のステップ

1. 内部統制を実現するために必要な内部統制の仕組み(内部統制システム)を、ゴール指向分析手法を利用して明確化
2. 内部統制システムとITシステムとの係り=「ITによる対応が可能な部分」を明確化
3. 「ITによる対応が可能な部分」を内部統制支援ITシステムとして実現する方法を想定
4. XMLを活用して、内部統制支援ITシステムと現実の情報システムを連携して動作させる方法を、サンプルシステム等を利用して検討

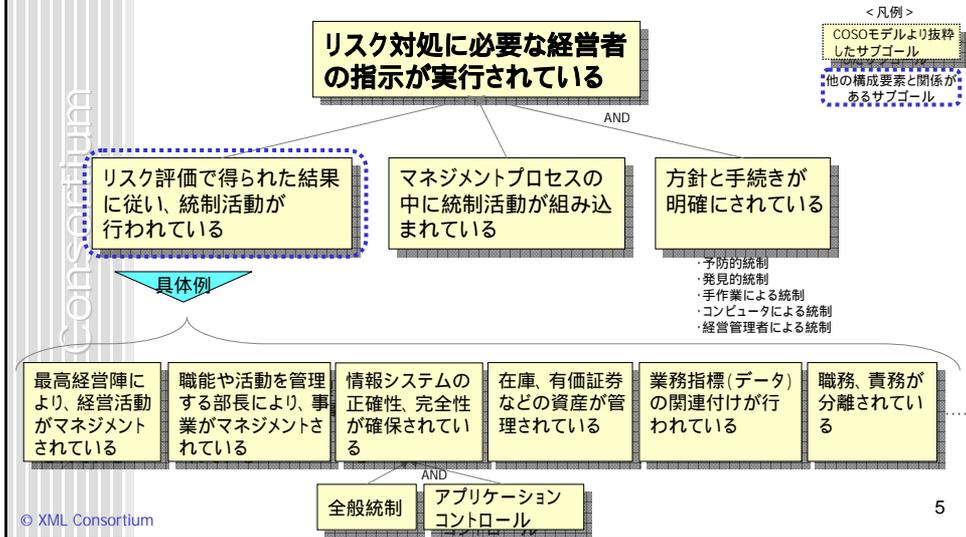


ステップ1~3は勉強会として実施
ステップ4は部会として進めることを検討

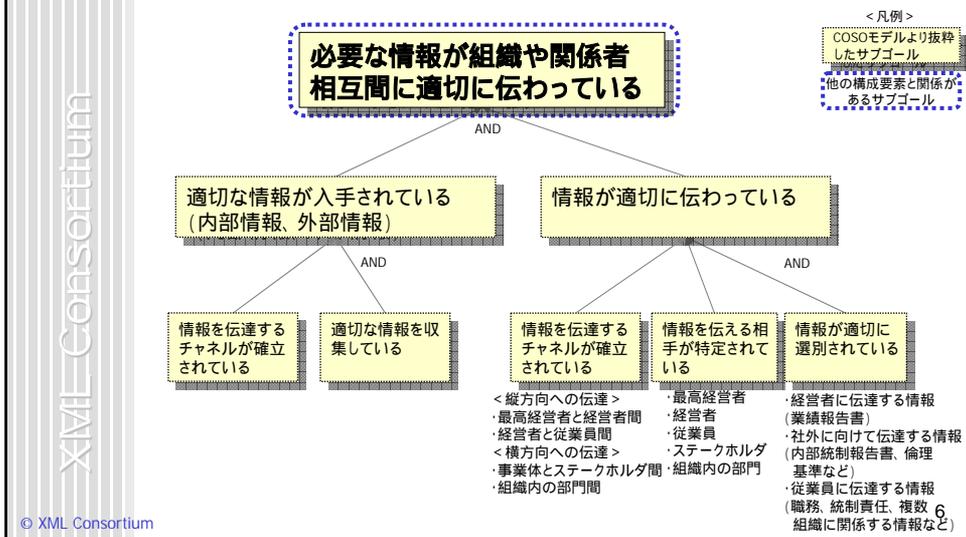
皆様(特に、内部統制構築を実施されている方や困っている方、BPM・会計処理・監査に詳しい方)のご参加をお待ちしております。

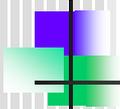


「統制活動」のゴールモデル分析



「情報と伝達」のゴールモデル分析





ITによる対応が可能な内容



XML Consortium

